

## 証

私は、誰ですか

あの日。夏の強い日差しが差し込む朝。  
私は、銀行の前の段差に腰かけていました。  
行き交う人々を眺めて、ぼんやりとしながら。

その瞬間、  
辺りがひかった。  
そして、私は失ったのです。私という存在を。

形あるものは自分の「かげ」だけ。  
今も多くの人が私を探しています。  
でも、もう私が誰かは分からない。

私は、誰ですか

あの日、いつもと同じ朝。  
私は、起きて、ご飯を食べて、いつもと同じようにあの場所で過ごしていました。

その瞬間、  
辺りが何も見えなくなった。  
私は何が起きたのか分かりませんでした。  
ただ、痛い、熱い。

そのうち私は、私の骨は、  
幾多の人の骨と一緒にドラム缶に詰められていました。  
私は誰かであったはずなのに。  
誰かが私を探していたかもしれない。  
でも、もう私が誰かは分からない。

私は、誰でしょう。

かつて誰かの家族だった私。  
かつて誰かであった私。  
一瞬の光で全てを失ったのです。

私の「証」は残らない。